

# 三菱化工機グループ 会社案内

2025年度



本 社：〒210-8560 川崎市川崎区大川町2番1号  
本社事務所：〒212-0013 川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館  
TEL：044 (333) 5354 (代表)



## 三菱化工機の企業理念

三菱化工機グループは、「モノづくりに根ざした確かな技術と徹底した品質管理に基づく高品質な製品・設備を提供し社会の発展に貢献する」ことを企業理念とし、新しい時代のニーズに応えとともに、新しい事業分野への積極的なチャレンジを行い、お客様のあらゆる要望に対応する製品・技術・サービスを提供してまいります。

## 三菱化工機グループ2050経営ビジョン

三菱化工機グループを取り巻く事業環境が大きく変化する中、将来にわたって持続的な成長を継続するために、「持続可能な発展に挑戦し、快適な社会を実現」というビジョン・ステートメントのもと、2050年をターゲットとした「三菱化工機グループ2050経営ビジョン」を2021年に策定しました。当社グループとして解決すべき5つの社会課題を設定し、それらに対応する4つの戦略的事業領域を展開すること、そして社会課題に対応する新たな事業ポートフォリオを確立することを通じて、ビジョンの実現に挑戦していきます。

### ビジョン・ステートメント

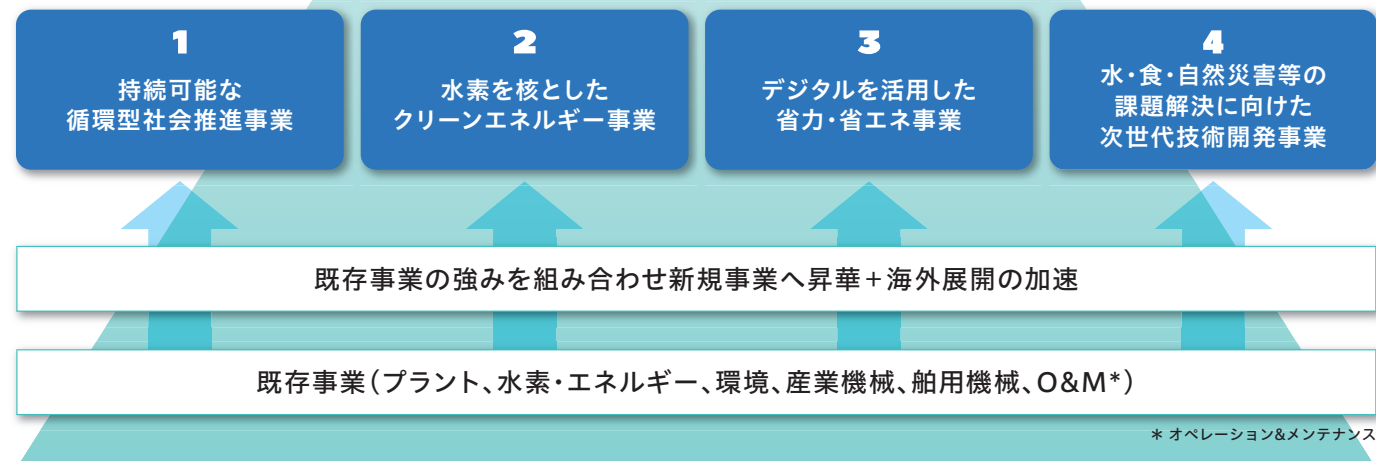
持続可能な発展に挑戦し、快適な社会を実現

**MORE Sustainable,  
KEEP Innovating for a  
KINDHEARTED Society**

MITSUBISHI KAKOKI KAISHA, LTD.

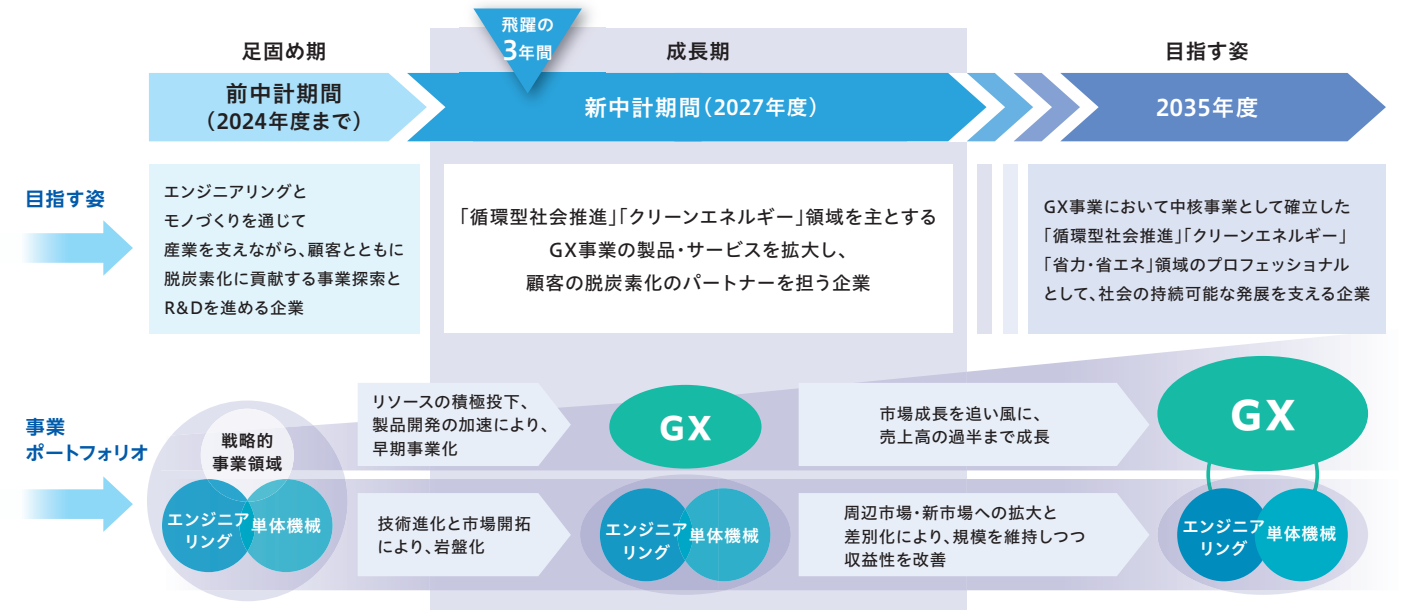


※1 洪水、異常気象、山崩れ・地滑り、干ばつ、山火事の発生件数合計  
※2 65歳以上を高齢者と定義



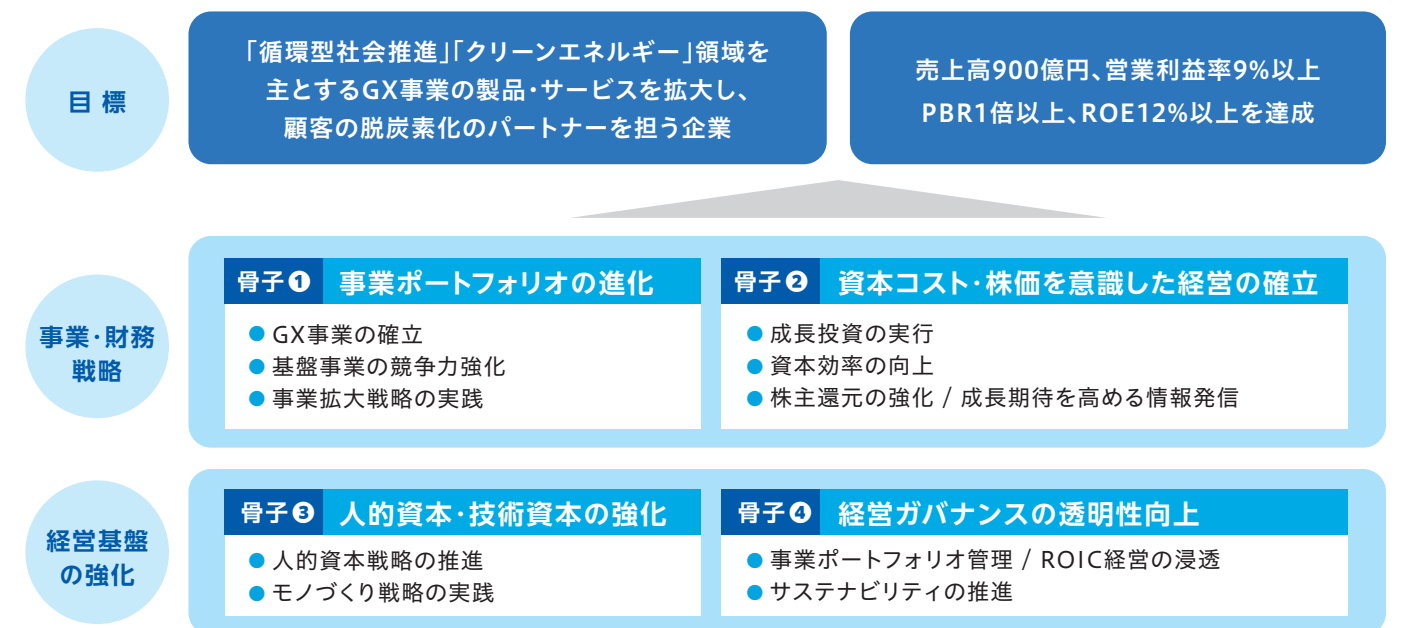
## 中期経営計画(2025年4月~2028年3月)

三菱化工機グループでは、本中期経営期間を経営ビジョンの実現に向けた、『進化と変革へ』の第2ステージとして、飛躍の3年間と位置付けました。過去最高水準の経営数値目標を達成するため、2050経営ビジョンにおける戦略的事業領域を切り出して新たな独立セグメントとした「GX事業」を成長ドライバーと位置付け、戦略的事業領域のさらなる推進・拡大を図ります。また、当社の魅力を十分に発信するとともに、株主還元の強化と資本効率の向上に取り組みます。



## 中期経営計画の概要

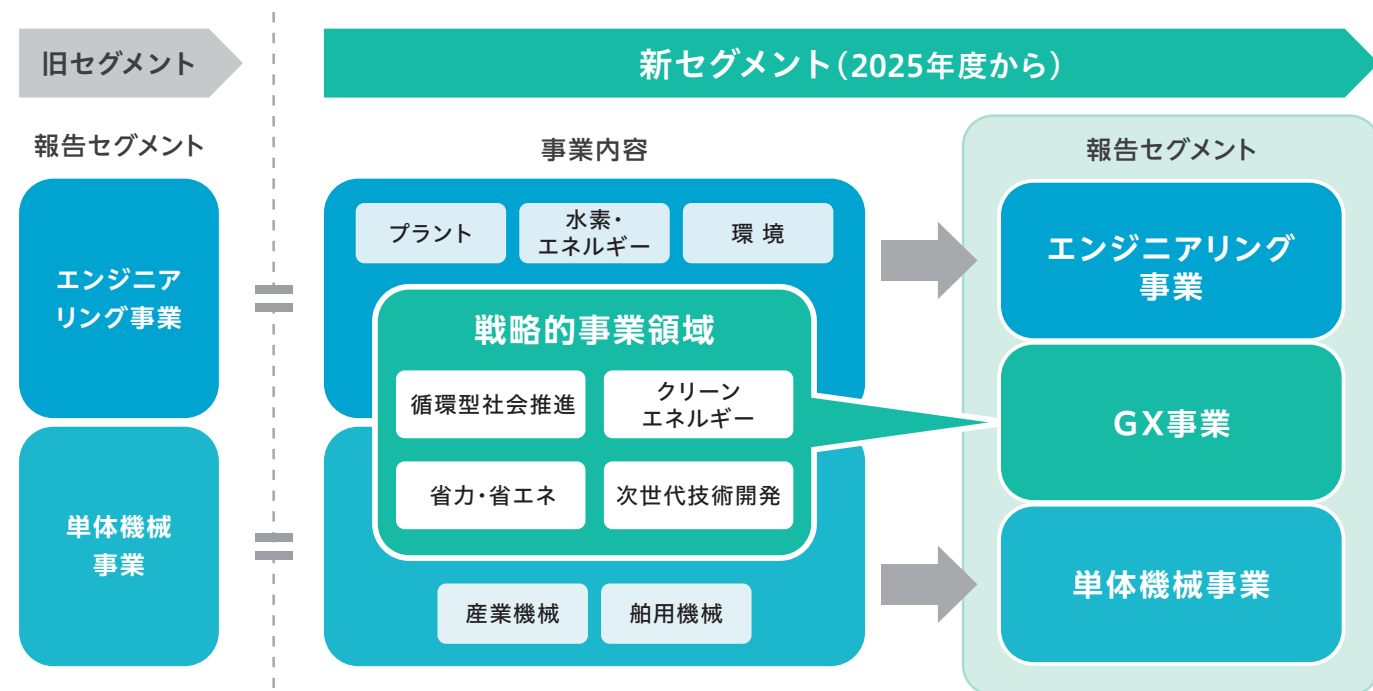
本中計では、①事業ポートフォリオの進化、②資本コスト・株価を意識した経営の確立、③人的資本・技術資本の強化、④経営ガバナンスの透明性向上という、4つの骨子を策定しました。GX事業は成長事業と位置付けリソースを積極投入し、製品開発や事業拡大を加速します。また、GX事業の強化、DX推進、事業拡大を図るためM&Aも視野に入れる等、事業ポートフォリオの進化を図ります。基盤事業については、差別化・競争優位性を確保することで収益性の向上を図ります。また、経営基盤の安定を図るため、企業価値向上に資する施策を推進します。





## GX事業

当社では「三菱化工機グループ経営ビジョン2050」で掲げる、4つの戦略的事業領域「持続可能な循環型社会推進事業」「水素を核としたクリーンエネルギー事業」「デジタルを活用した省力・省エネ事業」「水・食・自然災害等の課題解決に向けた次世代技術開発事業」の実現に向け、その推進を加速させるため、2025年にGX事業を立ち上げました。GX事業を新たな報告セグメントに加えることにより、戦略的事業領域に関する事業計画の進捗度合いを定量的にモニタリング可能な体制としています。併せて新設されたGX事業推進室がその中心的な役割を担い、事業部門との調整を行い、ビジネス展開の加速・拡大を図ります。本中計期間中については「持続可能な循環型社会推進事業」「水素を核としたクリーンエネルギー事業」の2事業をQuick-Win分野と定め、中計期間の最終年度には売上高230億円の事業とする計画です。



## GX事業の製品サービス

### 1 持続可能な循環型社会推進事業

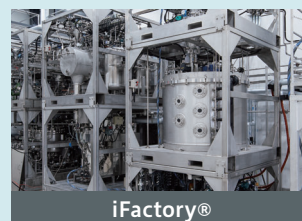


メタネーション 開発中

CO<sub>2</sub>液化装置 開発中

バイオガスからの水素製造

### 3 デジタルを活用した省力・省エネ事業



### 2 水素を核としたクリーンエネルギー事業



開発中

水素ステーション

水素吸蔵合金配送システム 開発中

吸蔵合金水素圧縮機 開発中

アンモニア分解 開発中

水電解水素製造装置 開発中

### 4 水・食・自然災害等の課題解決に向けた次世代技術開発事業



## エンジニアリング事業

当社のエンジニアリング事業では、産業の基盤となる化学系素材、半導体関連、電子材料やライフラインを支える都市ガス、排水処理から、新たなエネルギーとして注目度の高い水素まで幅広い分野においてプラント建設をてがけています。プラントエンジニアリングにおける長年のノウハウを生かし、施工品質、納期管理、安全対策にこだわった技術力で顧客ニーズに応え、持続可能で快適な社会の実現に貢献します。

### プラント事業



高品質・低価格・短期間でお客様のニーズにお応えするプラントをご提供します。また、川崎をはじめ、鹿島、四日市、水島、北九州といった工業地帯には関連会社や協力会社を含めた多くのアフターサービス拠点を有し、建設後の保守にも、万全の対応を整えています。

#### 主な事業

石油化学、半導体、電子材料、医薬、食品関連のプラント建設など

### 環境・水素・エネルギー事業



今でこそ多くの注目を集める水素関連のプラント建設を、当社グループでは1960年代より行っており、永年培ったノウハウは現在主力の小型水素製造装置へと受け継がれています。公共インフラを支える水処理関連技術とともに、持続可能な社会の発展に今後も貢献していきます。

#### 主な事業

水素製造装置、水素ステーション、都市ガス関連プラント、各種水処理施設、廃棄物処理施設、バイオガスプラントなど

## 単体機械事業

当社のコア技術である「固液体気体の分離」技術のうち、主に創業時から培ってきた「固液分離技術」をもとに、ろ過機、遠心分離機、除塵機等多彩な単体機械製品の開発・設計・製作・販売を手掛けています。事業内容は船用機械分野と産業機械分野に大別され、船用機械分野では主力製品である油清浄機をはじめ、環境規制対応機器の製造・販売、および全世界を網羅するアフターサービスを提供しています。産業機械分野では、医薬や食品、化学など様々な分野のお客様に、最適な機種を選定から、機器納入、納入後のアフターサービスまでお客様をトータルサポートします。



油清浄機を中心に、高性能各種単体機器（遠心分離機、ろ過機、除塵装置、攪拌機、洗浄装置等）の製作を軸に事を展開しています。これからも確かな技術に基づいた製品の提供からアフターサービスまで万全の体制でお客様をサポートいたします。

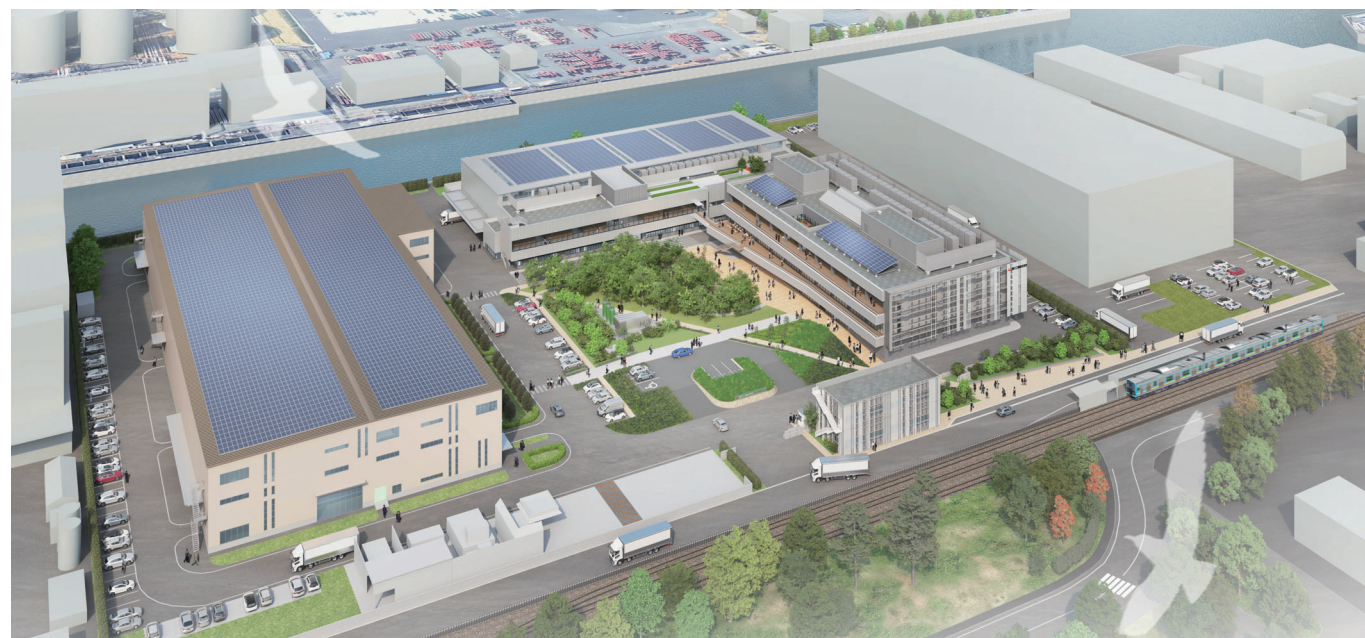
#### 主な製品

船用機械：油清浄機、船舶環境規制対応機器

産業機械：ろ過機、遠心分離機、除塵機、攪拌機ほか



## 本社・川崎製作所の再編



### 計画の目的

当社は1935年の創立以来、現在の本社・川崎製作所をモノづくりの主力工場としていましたが、老朽化が進行したことや、「三菱化工機グループ2050経営ビジョン」の実現に向けて事業基盤を整備する必要性から、再編計画の実施を決定しました。本計画は当社が掲げる4つの戦略的事業領域の確立に向けた事業ポートフォリオ改革と、新たなモノづくり戦略を推進するための戦略的な事業投資です。

本計画では本社・川崎製作所内の各棟（SJ工場・水素ステーション一帯を除く）を解体し、当社事業に必要な工場・事務所・研究施設の建替えを計画しています。

### 事務所研究棟

事務所および研究施設の機能を集約することで、それらの機能に要するスペースや食堂、会議室など付帯設備の最適化を図ります。

### 工場実験棟

環境に配慮した最先端工場をコンセプトに省エネや脱炭素化、DX化をリードするモノづくりの中心拠点として、既存の遠心分離機やろ過機、フィルター等の産業機械および船舶環境規制対応機器の組み立て機能のほか、次世代製品の生産を担います。

また、当社の既存あるいは新規技術と当社経営ビジョンに掲げる戦略的事業領域を軸に、外部機関との共創・相乗効果を図る多目的な実験・研究フィールドを併設します。



事務所研究棟（イメージ）



工場実験棟（イメージ）

## 研究開発・技術開発・生産

研究開発・生産統括本部では、長年蓄えてきた優れた技術と充実した試験設備や、部門員の機動性を最大限に活用し、各種要素技術のさらなる深化と新技術・新製品の開発を推進しています。経営ビジョンの実現、本中期経営計画の達成に向けて、新たに新設されたGX事業に関わるR&Dを推進するほか、2024年度からスタートした川崎製作所のリニューアルにおいても研究開発、モノづくりの主管部門として、その再編計画をリードしていきます。

### 技術開発・生産統括本部

#### 研究開発部

- 開発企画課
- 知財管理課
- 研究試験課
- 開発実装課
- 材料開発課
- 中長期的視点、かつ既存の枠組みにとられない研究テーマの探索と開発の促進
- 研究開発に資する材料開発および材料試験、応用試験業務の推進
- 知的財産の重要性の周知と積極的な知的財産の創造、保護および活用の推進。特許調査、特許侵害防止
- 開発技術の社会実装に向けた装置化の推進

#### 技術開発室

- 経営ビジョンの実現に向けたテーマ考案と事業部との協業の探索
- 複数の事業部に跨る開発案件の促進と効率的な進行のステアリング
- 基礎技術の組み合わせによる付加価値向上の探索
- 商品化・事業化（マネタイズ）に向けたビジネスモデルの構築

#### 製造部

- 生産技術課
- 鹿島製造技術課
- 産業機械製造課
- 鹿島業務課
- SJ製造課
- 各製造拠点（川崎、鹿島など）の統括的な管理
- 製造取り纏め部門として、生産管理および業務改革の推進
- 工場内安全確保と適切な設備点検による無事故無災害の達成
- 品質コストの削減（目標設定とフォロー実施）
- 経営ビジョン実現に向けたモノづくり戦略の策定

## MKK PROJECT by 三菱化工機 ～川崎を「Energy創発特区」へ～

「MKK PROJECT by 三菱化工機」（以下、MKKプロジェクト）は当社が有する環境対応・創エネルギー技術と共創パートナーが有するアセットやノウハウを活用・融合させ、社会課題解決ソリューションおよびビジネスモデルの創出を目指すプロジェクトです。本プロジェクトでは、川崎市および神奈川県に所在する企業や団体を中心とした多種多様な共創パートナーとともに、水素やバイオマスなどによる地域循環型エネルギーシステムの開発供給と、それらの需要開発（ビジネスデザイン）を両輪で推し進め、循環型社会における新たなビジネスモデルの構築、ひいては社会課題の解決を目指します。



MKK PROJECTのロゴ



プロジェクト、5つの活動分野



## サステナビリティ基本方針

当社グループは、「モノづくりに根ざした確かな技術と徹底した品質管理による高品質な製品・設備をご提供する」ことを基本方針とし、全てのステークホルダーと健全で良好な関係を維持・向上させ、企業価値の向上を図ることが、当社グループのサステナビリティの実現につながると考えています。

### サステナビリティの基本姿勢

当社グループの事業活動自体が、地球環境や地域社会に影響を与えることを認識し、「企業倫理・コンプライアンスの徹底」「顧客満足度の向上」「環境保全」「安全な職場環境の確保」「透明な情報開示」「社会貢献」をサステナビリティの基本姿勢として捉え、事業活動を展開します。

#### 企業倫理の遵守・コンプライアンスの徹底

法令及び社会的規範の遵守を徹底し、地域の文化や慣習、人権を尊重した行動を心がけ、高い倫理観に基づく持続可能な経営体制を確立・強化します。これによりステークホルダーとの信頼関係を確固たるものに築きます。

#### 顧客満足度の向上

常にお客様の視点から事業を創造し、お客様の立場で業務に取り組み、製品・設備のコスト・品質・安全の向上を図ったモノづくりを進めます。お客様の期待を超える価値を追求することで、持続可能な関係の維持・向上に努めます。

#### 環境保全

事業活動が環境に及ぼす影響を最小限に抑えるため、自然資本を確保しつつ、エネルギーや資源の効率的な利用を進め、製造・建設から廃棄に至るまでを考慮した環境負荷低減型製品・設備の開発に挑戦し続けることで、持続可能な発展に向け努力します。

#### 安全な職場環境の確保

従業員が安全かつ安心して働ける労働環境の維持・改善に努め、事故・災害や健康リスクの低減を図ります。従業員の安全意識の向上を図り、持続可能な働き方を推進します。

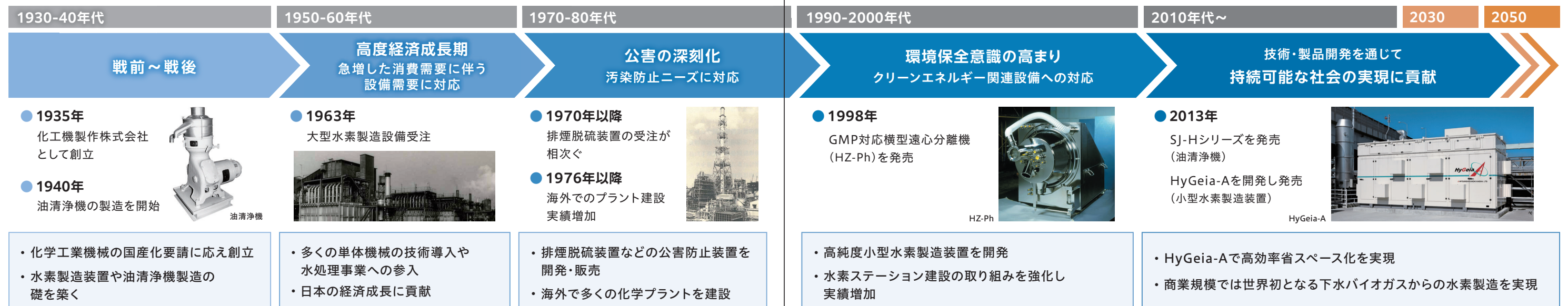
#### 透明な情報開示

企業の基本情報、IR情報、採用情報、製品情報について、適時適切な開示を行います。透明性を重視した情報開示に努め、ステークホルダーとの信頼関係をより一層深めます。

#### 社会貢献

持てる資源を最大限活用し、地域社会や多様なステークホルダーに対して積極的に貢献します。地域と共に成長し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進します。

## 沿革



## 人財戦略

### 人事理念

三菱化工機グループの企業理念である『モノづくりに根ざした確かな技術と徹底した品質管理に基づく高品質な製品・設備を提供し社会の発展に貢献する』ためには、従業員が最も重要な経営資源と考えています。次の人事理念を掲げ、理念の実現を目指します。

- ① 高い技術とプロ意識、並行して人の和とルールを遵守する人材の育成
- ② 一体感のある職場風土の醸成
- ③ 安心・安全・健康的な職場環境の整備

全従業員意識調査結果

強み / プラス

弱み / 課題

2018年 役割行動主義による人事制度を導入



### 人財戦略の基本的な考え

人事理念に基づき、期待される成果を創出するための行動(プロセス)を評価し処遇に結び付ける役割行動主義に基づく人事制度を2018年に導入し、環境の変化に対応できる自律型人材の育成を進めています。また、次世代経営人材の育成に関しては、サクセッションを意識した人材プール・育成プランを策定し、進化する業務・組織ニーズに合わせたプール人材育成プログラムを展開しています。

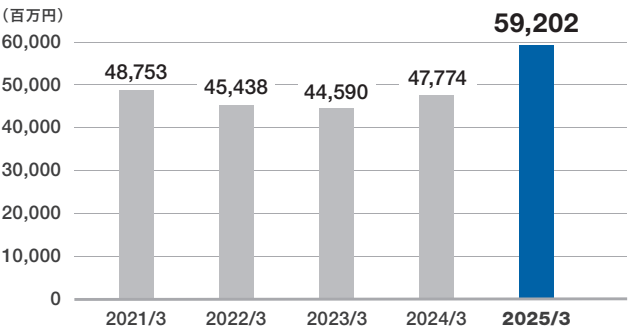
こうした制度を通じた取り組みを継続していくことで、当社グループの経営ビジョン実現を目指し、風土改革活動などの他の施策と併せて広く人事戦略を実施し、経営戦略と財務戦略と連携させています。

### 労働生産性の向上と働きやすい職場環境づくり

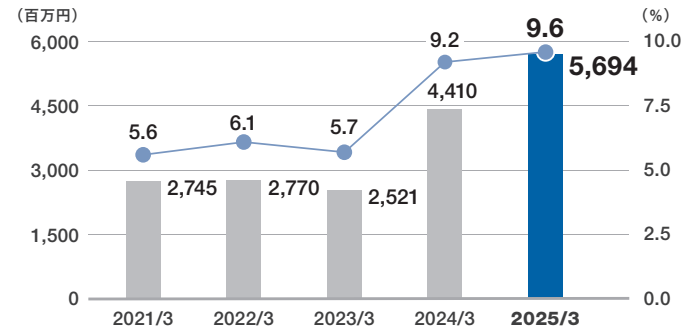
- 従業員満足度向上や生産性向上のため、テレワーク勤務制度、電子決裁システム、Web会議システムなどを導入し、より効率のよい業務遂行ができるよう職場環境を整えています。
- 本社・川崎製作所の再編に際しては、ワークプレイスコンサルを起用し、新しい働き方を若手従業員が中心となって検討しており、さらなる従業員のエンゲージメント向上を進めようとしています。
- 出産時の配偶者の特別休暇制度や介護・看護休暇への積立休暇充当による有給化、育児・介護短時間勤務制度など、従来から育児・介護に関わる諸制度について法定以上の制度を備えています。男性・女性など全ての属性を問わず、働きやすい職場環境づくりを追求しています。

## 財務ハイライト

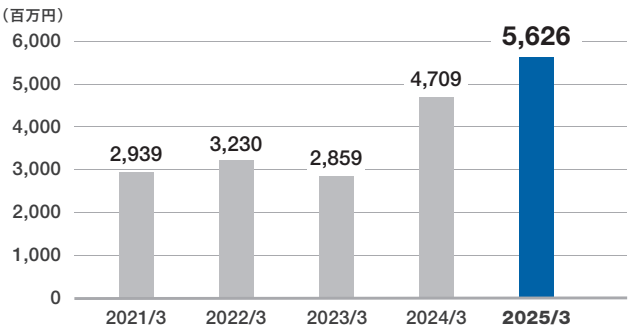
### 売上高



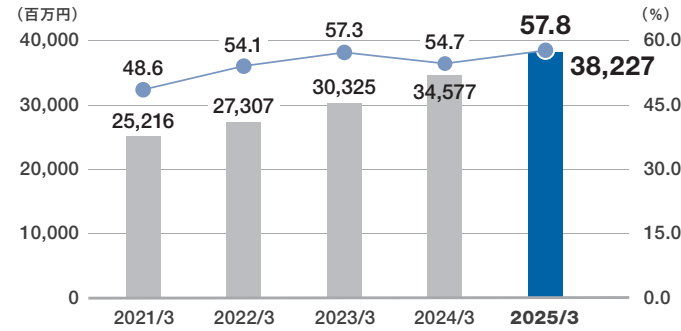
### 営業利益 / 営業利益率



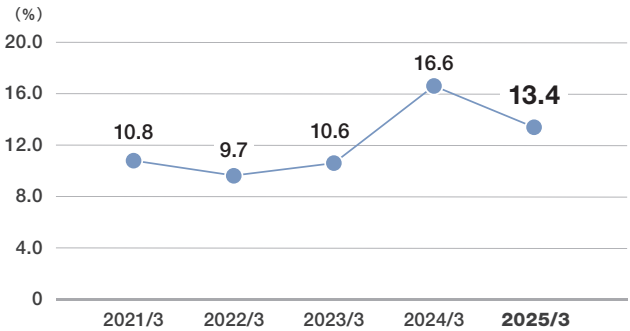
### 経常利益



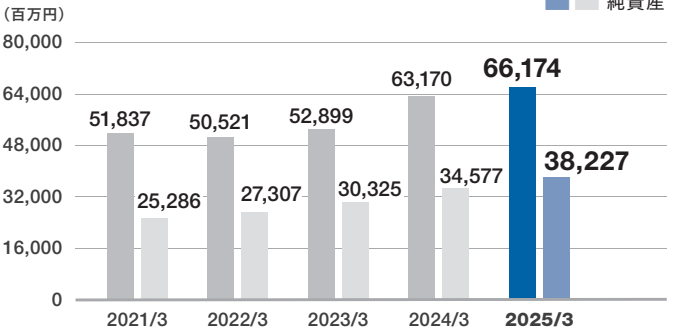
### 自己資本 / 自己資本比率



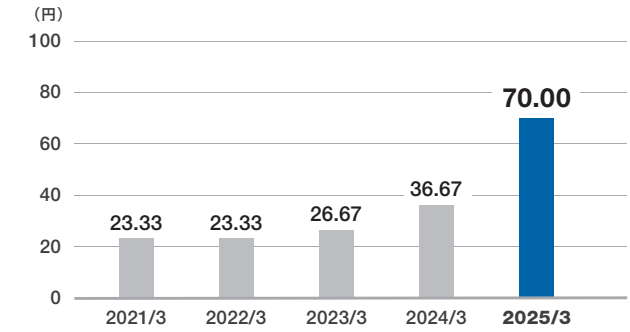
### 当期純利益率(ROE)



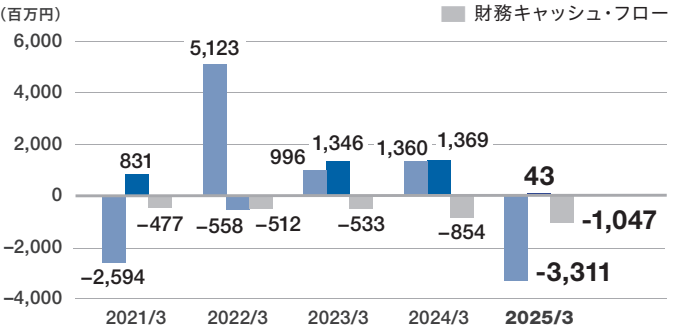
### 総資産 / 純資産



### 1株当たり配当金



### キャッシュ・フロー



\*当社は2025年4月1日付で普通株式1株を3株に株式分割しております。2025年3月期以前の数値は株式分割を考慮して計算しております。

## 会社概要

|        |   |       |                                      |
|--------|---|-------|--------------------------------------|
| 商号     | 三菱化工機株式会社<br>(Mitsubishi Kakoki Kaisha, Ltd.) | 事業内容  | 各種プラント・環境設備及び<br>各種単体機械等の設計、製作、据付、販売 |
| 設立     | 1949年9月(創立:1935年5月)                           | 上場区分  | 東京証券取引所プライム市場                        |
| 資本金    | 39億5,697万5千円                                  | 証券コード | 6331                                 |
| 連結従業員数 | 1,017名(2025年3月31日時点)                          | 業種区分  | 機械                                   |

## 拠点一覧

### 事業所一覧

|       |   |          |   |
|-------|---|----------|---|
| 本社事務所 | 〒212-0013<br>川崎市幸区堀川町580番地<br>ソリッドスクエア東館<br>TEL 044-333-5354  | 鹿島工場     | 〒314-0255<br>茨城県神栖市砂山8番地<br>TEL 0479-46-1151        |
| 本社    | 〒210-8560<br>川崎市川崎区大川町2番1号<br>TEL 044-333-5354                | 四日市事業所   | 〒510-0875<br>三重県四日市市大治田三丁目3番48号<br>TEL 059-349-3601 |
| 大阪支社  | 〒541-0042<br>大阪市中央区今橋二丁目5番8号<br>トレードピア淀屋橋<br>TEL 06-6231-8001 | 国内営業所    | 東北、横浜、名古屋、広島、九州、沖縄                                  |
| 川崎製作所 | 〒210-8560<br>川崎市川崎区大川町2番1号<br>TEL 044-333-5386                | 海外支店     | 台湾  |
|       |   | 海外営業所    | マレーシア   |
|       |   | 海外駐在員事務所 | インドネシア  |

### 関連会社

| [連結子会社]  | [非連結子会社]  |
|--|---|
| <div>■ 三菱化工機アドバンス株式会社</div> <div>〒212-0013 川崎市幸区堀川町580番地<br/>ソリッドスクエア東館</div> <div>事業内容:各種プラント・環境装置の設計、製造、建設、<br/>アフターサービス、メンテナンス、維持管理、<br/>環境測定、人材派遣等</div> | <div>■ MKKビジネスプラス株式会社</div> <div>〒210-8560 神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号</div> <div>事業内容:三菱化工機グループ内の内販ビジネス</div>  |
| <div>■ MKK東北株式会社</div> <div>〒010-1612 秋田県秋田市新屋豊町1番58号</div> <div>事業内容:強化プラスチック(FRP)製品の製造・販売、<br/>設備維持管理業務</div>  | <div>■ 株式会社MKKi</div> <div>〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町580-16<br/>川崎テックセンター15階</div> <div>事業内容:新規事業形態探索および<br/>ビジネスモデルデザイン、<br/>イノベーション人材の育成等</div> |
| <div>■ MKK Asia Co., Ltd.</div> <div>タイ王国 バンコク市</div> <div>事業内容:東南アジア地域におけるプラント設備の設計、<br/>機材調達、建設、メンテナンス</div>   | <div>■ 菱化機械技術(上海)有限公司</div> <div>中華人民共和国 上海市</div> <div>事業内容:中国におけるSJ・OPその他船用機器装置、<br/>各種分離機および部品の販売、<br/>技術支援並びに保守、修理等サービス業務</div>           |
| <div>■ MKK EUROPE B.V.</div> <div>オランダ王国 アムステルフェーン市</div> <div>事業内容:欧州における船舶機器装置および<br/>部品の販売並びに保守、補修等サービス業務</div>   |   |

2025年12月現在